

令和元年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

大阪市立真田山幼稚園

令和2年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題**<真田山幼稚園教育目標>**

「明るく、たくましく、心豊かな真田山っ子を育てる」

*健康で明るい子ども *自分で考える子ども *仲良く遊ぶ子ども

*人の話を聞く子ども

<真田山幼稚園の現状と課題>

落ち着いて活動できる子どもが多い。気付いたことなどを発言することはできるが、友達と意見や思いが食い違くと本心を言えず我慢することが多い。

平成28年度の自己評価、関係者評価の課題(教育課程の更なる充実・交通ルールの遵守・保護者アンケートのとり方の工夫)を基に下記のような観点で進めていく。

○生きる力の基礎となる、心情・意欲・態度を育て、自分のことを自分でできる力、友達のことを思いやる気持ちを身につけて、小学校生活へつなげていく。

○大阪市教育振興基本計画に基づき、就学前教育カリキュラムを参考に、新しい運営の計画を作成し、真田山幼稚園の教育課程及び月ごとの指導計画の見直しを行い、幼稚園教育の中の学びを明確にする。

○健康で安全な生活を送る習慣や態度を身につけるために指導の方法を工夫する。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

○地域・異年齢などと様々な交流を行い、教師や友達に親しみ、安心して過ごすことができるようにする取り組みや、子どもの育ちについて保護者に分かりやすく伝えることで、平成32年度の保護者アンケートで「相手の思いに気付き、自分の思いも表現できるようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領を参考にして、教育課程を見直し、自ら環境にかかわる中で探求心・好奇心・思考力の芽生えを培えるような保育内容を工夫する。平成32年度の保護者アンケートで「自分で考え、工夫する力が育った」と感じる保護者を80%以上にする。

○年間計画を立て実践し、園の取り組みについて保護者に分かりやすく伝え、平成32年度の保護者アンケートで「進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことが好きになった」と感じる保護者を80%以上にする。

【その他】

○色々な音やリズムに親しみ、教師や友達と音や音楽にふれて遊ぶことを楽しむことで、豊かな感性を養い、保護者アンケートで「音楽にふれて遊ぶことを楽しむようになった」の肯定的回答が80%以上になるようにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**園の年度目標**

①目的をもって異年齢や他クラスと意図のある交流を行うことで、教師や友達に親しみ、受け入れ合える関係をつくり、安心して過ごすことができるようにする。取り組みや子どもの育ちを保護者に分かりやすく伝えることで、保護者アンケートで「相手の思いに気付き、自分の思いも表現できるようになった」の項目で肯定的回答が75%以上になるようにする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**園の年度目標**

①就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領を参考にして、教育課程を見直し、自ら環境にかかわる中で探求心・好奇心・思考力の芽生えを培えるような保育内容を工夫する。保護者アンケートで「自分で考え、工夫する力が育った」と感じる保護者を70%以上にする。

②子どもの実態に即した年間計画を立て実践し、園の取り組みについて保護者に分かりやすく伝え、保護者アンケートで「進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことが好きになった」と感じる保護者を70%にする。

【その他】**園の年度目標**

①色々な音やリズムに気付き、教師や友達と音やリズムにふれて遊ぶことを楽しむことで、豊かな感性を養い、保護者アンケートで「音楽に触れて遊ぶことを楽しむようになった」の肯定的回答が80%以上になるようにする。

3 本年度の自己評価の総括

- ・全職員が常に連携を図り一人一人の子どもの実態やクラスの課題、友達関係を共通理解することで、日々の指導方法を工夫することができた。
- ・意図をもって他クラス、異年齢、地域の様々な方と交流を深めてきたことや、クラスでの話し合いを行ってきたことで、思いやりの心が育ち、自分の思いを出し、相手の気持ちにも寄り添いながら接することができた。年度末の保護者アンケート「幼稚園生活の中で教師や友達に親しみ、安心して過ごす中で、相手の思いに気付き、自分の思いも表現できるようになった」の項目で肯定的回答が98%であった。
- ・誕生会のプレゼント製作では、誕生児の気持ちを考えて作ることができるようになってきた。「他クラスや異年齢の友達と交流する中でお互いの思いを受け入れあったり、他者を思いやったりする気持ち育ってきた」の項目で肯定的回答が98%であった。
- ・保護者や地域の方などに対し、毎月の子どもの姿を写真とともにコメントを添えて掲示したり、学期ごとパワーポイントを活用したりして子どもたちの育ちや教育内容を知らせてきた。
作成するときには教職員で見直したり、どのようにしたら伝わりやすいのか話し合ったりしたことで年度末アンケート「真田山幼稚園教育や子どもの育ちが、写真と共に掲示しているので分かりやすい」の項目で肯定的意見が99%であった。
- ・保護者が保育内容を知り、安心して幼稚園へ通わせることで子どもも安心して過ごせることへとつながった。
- ・意図をもった交流、掲示物やプレゼンテーションを作成する中で、教職員の意識も高まり、幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムなどを意識しながら教育活動を行うことができた。また、一人一人の子どもの実態を共通理解してきたので、実態に即したタイミングの良い援助や保育内容を工夫することができた。年度末アンケート「自ら環境にかかわる中で、探究心、好奇心、思考力の芽生えを培えるように、保育内容の工夫により、自分で考え、考える力が育ってきた」の項目で肯定的回答が100%であった。
- ・創立70周年をお祝いしようと、4月の誕生会から幼稚園の今と昔の写真を見せて知らせたり、70という数の多さを知らせたりできるように工夫したことで、お祝いの気持ちをもって周年行事に参加することができた。3学期始業式アンケート「70周年をお祝いする気持ちをもっていた」では肯定的回答が95%であった。
- ・健康や体力面では、年間計画以上に体を動かす遊びに取り組むことができた。クラス全体で遊んだり、教師と一緒に遊んだりと取り組み方を工夫することで体を動かす遊びを楽しく感じられるようにした。年度末アンケート「幼稚園での生活を通して、進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことが好きになった」の項目で肯定的回答が99%であった。
- ・園内研究保育は計画以上に実施することができた。自分以外の教員の保育を見たり、その後話し合ったりすることで保育の工夫や取り組み方などについて学ぶことができた。
- ・音楽にふれる機会を意図してつくったことで、自らデッキを操作し、主体的に音楽にふれて遊ぶようになった。曲想からイメージを広げ、楽器の鳴らし方、使う楽器などを考えて演奏を楽しむことができた。年度末アンケートで「いろいろな音やリズムに気付き、教師や友達と音やリズムにふれて遊ぶことを楽しむことで、音楽にふれて遊ぶことを楽しむようになってきた」の項目で肯定的回答が99%であった。
- ・来年度も地域・保護者との連携を深めていきたい。また、一人一人の子どもの実態を把握し、保育内容を工夫していけるように教職員の資質向上に努めていきたい。

大阪市立真田山幼稚園 令和元年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>園の年度目標</p> <p>① 目的をもって異年齢や他クラスと意図のある交流を行うことで、教師や友達に親しみ、受け入れ合える関係をつくり、安心して過ごすことができるようにする。取り組みや子どもの育ちを保護者に分かりやすく伝えることで、保護者アンケートで「相手の思いに気付き、自分の思いも表現できるようになった」の項目で肯定的回答が75%以上になるようにする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>子ども一人一人の実態や友達関係を把握し、全職員で共通理解をはかる。</p> <p>指標 月1回、園内委員会を開く。</p>	B
<p>取組内容②【2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>安心して過ごし、相手の思いに気付いたり、お互いの思いを受け入れ合ったりできるような環境や保育内容を工夫する。</p> <p>指標 月1回、他クラス、異年齢で意図をもって交流し、その活動内容を工夫する。 週1回、クラスや学年で思いや考えを出し合えるような機会をつくる。 CAPの講習を受講する機会をつくる。(5歳児)</p>	A
<p>取組内容③【3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>活動のねらいや取組内容を分かりやすく写真やコメントで掲示したり、伝え方を工夫したりして保護者や地域の理解を得る。</p> <p>指標 月1回、活動の内容を分かりやすくまとめて、様々な方法で知らせる。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 4月から6回、気になる子どもへの適切な関わり方等を専門の先生に来ていただき、教えてもらった。常時、その日の出来事を職員間で情報交換し、子どもの実態や友達関係を把握し、全職員が子どもの様子を理解して、声掛けができるように心がけてきた。気になる子どもだけでなく、一人一人をしっかりと丁寧に理解し、成長を促すための手立てをどのようにしたらよいのか教職員全体で共通理解することができた。</p> <p>② 1学期から月1回以上の意図をもった交流やクラスでの話し合いを積み重ねてきたことで、お互いが思いを出し合えるようになり、クラスや幼稚園が安心して過ごせる場になったと思われる。5歳児の遊びに刺激を受け、3、4歳児もホッピングや一輪車、リレーなどに挑戦するようになった。その姿を見ていた5歳児は優しく、遊び方の方法やコツを教えたり、補助をしたりするなど思いやりをもってかかわる姿が見られた。</p> <p>2学期は運動会や子どもフェスティバルなど、各クラスや学年で意見を出し合い、イメージを共有して、進めていくことができた。思いや考えを出し合える機会をつくってきたことで、自分の思いだけでなく、友達の見聞き、自分の気持ちに折り合いをつけながらお互いの考えを取り入れながら、活動に取り組むことができた。</p> <p>3学期には、生活発表会の劇遊びや歌、合奏をきき合うことで、他クラスや他学年から刺激を受けて、「よい声とは」「リズムを合わせるとは」どういうことなのを感じる事ができた。他クラスの劇の話に興味をもったことから、クラスで絵本を読み聞かせたり、</p>

5歳児が使っていた楽器に触れる機会を設けたりしたことで、様々な楽器に興味をもつ、よいきっかけとなった。このようにクラスや学年で思いや考えを出し合うような機会を年間を通して週1回以上もつことができた。

5歳児が2月26、27日に受講したCAPでは、自分もっている大切な権利について、子どもたちに視覚教材や実演などを交えて、分かりやすく話をしてもらったことで、自分の体や心を大切にすることが芽生えた。

- ③月に1回、活動のねらいや取り組みを、写真やコメントで掲示することで活動の内容を知らせた。降園時に幼児一人一人の様子を保護者に知らせるなどして、幼児の成長した部分や課題などを共有し合っている。運動会の取り組みでは、全学年の取り組みを一つにまとめたものを掲示した。年齢によって取り組み方が違うが、教師が同じ願いをもって活動していることも保護者に理解してもらった機会になった。また、他学年の保護者や子どもが同じ掲示物を対話しながら見る姿も見られた。子どもフェスティバルでは、今まで掲示したものを全てまとめて展示したことで、多くの保護者が熱心に興味深く見ていた。それは普段園に来られない保護者にも、幼稚園での活動を知ってもらう機会となった。掲示するだけでなく、教師のねらいや思いも伝えることで取り組みの様子がより分かりやすく伝わるようにした。保護者が幼稚園に安心感をもつことで子どもたちが安心して幼稚園へ来ることにつながった。

次年度への改善点

- ①今後も、園内委員会を定期的に確実に開き、幼児の実態把握に努め、手立てなどを共通理解していきたい。また、安心して過ごすことができるように友達関係を含め、一人一人をしっかりと理解し、成長を促すための手立てをどのようにしたらよいのか今後も教職員全体で共通理解していきたい。
- ②今後も、行事や普段の遊びなどを活用し、他クラス・他学年が交流する機会をもち、関わりを深めていけるようにしていきたい。また、次年度の5歳児もCAPの講習を受け、子どもたちが、自分を大切にすることができ、安心して過ごせるようにしたい。
- ③掲示物などは、パンビに参加する地域の方や保護者に対して機会を見つけて掲示し、取り組み内容を知ってもらうようにしたい。また、ホームページも更新していき、より多くの方に幼稚園の取り組みを知ってもらえるようにしたい。また、掲示物をクラスの前貼るだけでなく、全クラス分をまとめて園内の目につきやすい場所に貼ることで、他クラスの様子もわかるようにしたい。

大阪市立真田山幼稚園 令和元年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>園の年度目標</p> <p>① 就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領を参考にして、教育課程を見直し、自ら環境にかかわる中で探求心・好奇心・思考力の芽生えを培えるような保育内容を工夫する。保護者アンケートで「自分で考え、工夫する力が育った」と感じる保護者を70%以上にする。</p> <p>② 子どもの実態に即した年間計画を立て実践し、園の取り組みについて保護者に分かりやすく伝え、保護者アンケートで「進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことが好きになった」と感じる保護者を70%にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 全ての基礎となる幼児教育の普及と質の向上】</p> <p>就学前教育カリキュラムや(新)幼稚園教育要領に基づき、本園の実態をふまえて教育課程・長期の指導計画を再編成する。</p> <p>指標 学期ごとに全職員で見直しを行う。</p>	B
<p>取組内容②【5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>子どもの実態に即した探究心、好奇心、思考力の芽生えを培えるような保育内容を工夫する。</p> <p>指標 学期に1回、事例をもとに子どもの育ちにつながる保育が進められているか、検討する。</p> <p>創立70周年を祝う気持ちを高められるような保育を工夫する。</p>	A
<p>取組内容③【7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>進んで運動遊びに取り組みような保育内容を工夫する。</p> <p>指標 年3回、園内研修会を実施する。</p> <p>体を動かす遊びについての年間計画を再編し、計画通り実践する。(別紙参照)</p> <p>学期に1回、実践記録をとり、指導方法について検討する。</p>	A
<p>取組内容④【7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>健康な体と心を保つための生活習慣を身につけるための指導を工夫する。</p> <p>指標 学期に1回保健指導を行い、指導内容を工夫する。</p>	A
<p>取組内容⑤【5 健康に関する現代的課題の対応】</p> <p>保護者も共に体を動かす機会をもったり、運動することの大切さを伝えたりすることで、保護者啓発を推進する。</p> <p>指標 月1回の安全の日を設け、徒歩通園を促す。</p> <p>学期に1回、行事を活用し、親子で体を動かす機会をつくる。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①長期休業中に就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領と照らし合わせて、全職員で見直しをした。今年度の取り組みが来年度の保育に生かせるようにしてきた。
- ②学期に1回以上遊びの実践記録をとり、子どもの育ちや実態に即した保育内容や教師の援助について話し合う機会をつくることができた。
- ・水、泥、泡遊びや、自然物など、季節に合った遊びも取り入れながら、子どもの興味に寄り添い、実態に応じて遊具や場の構成など環境を整えていったことで、存分に楽しむことができた。その中で、自分なりに考えたり試したり、友達と刺激を受け合いながら遊びを進めたりする姿が見られた。また、ダンゴムシ、ザリガニ、テントウムシ、アゲハチョウ、カタツムリなど、いろいろな生き物に触れたり、飼育したりできるようにした。絵本や図鑑などで調べられるようにしたり、幼虫から育てる中で、エサをあげたり、飼育ケースの掃除をしたりしたことで、より、興味、関心が深まった。日々の保育の中で、子どもの興味、関心にそって環境を再構成していくことで、意欲的に遊びに取り組むようになってきた。
 - ・運動会に向けての取り組みも、子どもと対話しながら進めてきたことで、一人一人が主体的に取り組む、クラスや同学年の友達と気持ちを合わせて活動することができた。また、いろいろな遊びに興味をもてるように、友達の遊びを見合ったり、みんなでやってみたりする機会をつくったことで子どもの興味、関心も広がった。5歳児は、綱引きやリレーの活動を通して、自分の思いを出したり、友達と考え合ったり、試したりすることができた。
 - ・子どもフェスティバルに向けて、5歳児は子どもが興味をもっていることを共通のテーマにしたり、3、4歳児は遊びからイメージが広がったりするようにしていったことで、自分なりに試行錯誤しながら作品づくりに意欲的に取り組むことができた。
 - ・生活発表会の劇遊びの取り組みで、絵本の内容で理解しにくいところは写真を見せたり、理解が深まるように話し合いの機会を重ねたりしたことで、共通のイメージをもつことができたり、みんなで考えを出し合い、表現方法を工夫したりすることができた。
 - ・創立70周年についての取り組みでは、4月の誕生会に5歳児が幼稚園の創立記念日について紹介の仕方を考えたり、プレゼントをつくったりして、他学年に創立70周年を知らせるきっかけをつくった。毎月、幼稚園の今と昔の写真を見比べられるようにし、違いを感じられるようにしていった。また、「70」という数の大きさを感じるできるように、70個の玉と自分の年齢の数の玉を並べて、見比べることができるように工夫したことで、70年の年月の長さを感じることもできた。
 - ・アンケートの「70周年をお祝いする気持ちをもっていた」の項目で肯定的な回答が95%であった。
- ③・今年度、園内研修会を6回実施した。園内研修会後の討議会では、付箋に「よかったところ」「課題と感じたところ」「改善点や工夫」を書き、拡大した指導案にそれを貼りながら、話し合いを進めていったことで、年齢や子どもの実態に合わせた保育の進め方や楽しんで体を動かす保育の内容について学びを深めていくことができた。
- ・年度当初に立てた体を動かす遊びについての年間計画に沿って保育を実施した。3、4歳児は季節や子どもの関心に合わせた曲でダンスをしたり、耳慣れた曲やピアノのリズムに合わせて、繰り返し体を動かす機会をもったことで、リズムに合わせて体を動かす楽しさを感じている。5歳児は、保護者と一緒に大縄跳びを楽しんだことが刺激になり、更に意欲をもって取り組むようになった。自分たちで縄を回したり、友達と一緒に跳んだりしながら楽しんでいる。2学期、運動会に向けての取り組みの中で、3歳児はサーキット遊びで、走ったり、バランスをとったり、ころがったりと、いろいろな動きを遊びながら経験していった。4歳児は、友達と動きやタイミングを合わせながらパラバルーンでいろいろな技に挑戦することで体を動かすことを楽しんだ。5歳児は、自分たちで遊びや動きを考えたり、縄・ホッピング・一輪車・フープの中からしたい遊びをひとつ選んで、自分なりに目標をもちながら挑戦し、最後まであきらめずに取り組み、できるようになったことが自信となり、体を動かすことの意欲が高まった。5歳児の一生懸命に挑戦している姿に憧れ、3、4歳児も新たな運動遊びに挑戦するようになった。
 - ・上記のような取り組みに加え、全員が運動遊びに興味をもてるように、クラス全体で体を動かす遊びに取り組んだり、教師と一緒に遊んだりすることで、体を動かす楽しさを味わえるようにした。保護者アンケートでは「幼稚園生活での生活を通して、進

んで運動遊びに取り組み、体を動かすことが好きになった」の項目で、肯定的な回答が99%であった。

- ・実践記録は年間5回とり、指導について検討会を行った。子どもの心の動きを読み取っていくことで、子どもの考えや育ちについて教員間で話し合ったり、他クラスの子どもの様子を共有したりすることができ、一人一人の幼児理解を深めることにつながった。また、教師の関わり方がどうであったか振り返ることで、次の保育の手立てを考えるきっかけとなった。

- ④保健指導について1学期は、「よい生活リズムについて」「歯みがきについて」「睡眠について」の3回実施した。また2学期は、全学年に対して運動会に向けての取り組みを踏まえて「ケガの予防について」を行った。3学期は、インフルエンザやコロナウイルス感染症などの、感染症への対策が必要であるという状況や、「手洗いに慣れてきて雑になっている」「石鹸をきちんと洗い流していない」「十分に拭き取りができていないなどによる手荒れが多く見られる」といった園の実態を踏まえて、手洗い指導を3歳児クラスで行った。また、手の洗い方についてのチェックを4歳児クラスでも順次行っていく予定である。上記の内容から、目標を上回る、年間5回の保健指導を行うことができた。

保健指導を行う際は掲示物や手洗いチェッカーなどの視覚的教材を用いた。これらの教材の活用によって、実際に体験したり、視覚的に示したりすることで、より指導内容に具体性が出て、幼児が主体的に指導内容に取り組むことにつながった。

また、簡単な言葉で指導を行い、より分かりやすい指導を心がけた。

歯みがき、水分補給、手洗い、うがいなど、日常の生活について、担任による個別の確認と指導を行い、幼児が健康な生活習慣を確立できるような工夫を行った。更に、保健指導や日常の生活について保護者啓発を行ったことで、家庭での生活についても意識が高まった。そのことで幼児が主体的に取り組む姿につながった。

- ⑤1学期はスポーツ大会、2学期は運動会があり、親子で一緒に体を動かして遊ぶことができた。幼稚園ウイークにおいては、保護者自身が企画・進行をし、積極的に体を動かしながらふれあって遊ぶことができた。アンケートで「体を動かす遊びを好んでするようになった」の肯定的回答が97%、「家庭でも休日などに、戸外で遊ぶように心掛けている」は91%であった。終業式のアンケートでは、紹介した遊び以外に「幼稚園で覚えてきた『なべなべ』をした」「手をつないでのぼって前回りの遊びをした」などの答えがあった。運動することの大切さを感じ、体を動かす機会をもつ保護者が少しずつ増えてきていることを感じる。

次年度への改善点

- ①今後も就学前教育カリキュラムや(新)幼稚園教育要領に基づき、全ての基礎となる幼児教育の普及と質の向上につなげていく。また、本園の実態を学期ごとに話し合うことで、教育課程・長期の指導計画を再編成し、来年度につなげていく。また、学期ごとに話し合いを行えるよう、今後は、月ごとに指導計画を再編成していけるようにする。
- ②子どもの実態を把握し、興味、関心に寄り添い、探求心、好奇心、思考力が育まれるような保育内容を更に工夫していく。
- ③今後も年間計画を活用しながら、子どもの様子や発達に応じて体を動かせるように保育を工夫していく。
- ④次年度も引き続き、保健指導について計画を立てて、内容を工夫して行う。時期や、地域の状況、園の実態を踏まえ、その都度保健指導の内容を検討し、幼児に合った保健指導を行う。
- ⑤次年度も保護者と共に楽しく体を動かせるような機会をつくっていく。また、安全の日を活用し、徒歩通園をしてもらえるように、引き続き声をかけていく。

大阪市立真田山幼稚園 令和元年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他】 園の年度目標 ① 色々な音やリズムに気付き、教師や友達と音やリズムにふれて遊ぶことを楽しむことで、豊かな感性を養い、保護者アンケートで「音楽にふれて遊ぶことを楽しむようになった」の肯定的回答が80%以上になるようにする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 色々な音や音楽にふれる機会をもち、豊かな感性が育まれるような保育内容を工夫する。 指標 学期に1回、子どもの感性が豊かになるような保育を工夫して行う。 学期に1回、教材について学ぶ機会をもつ。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>常時、子どもの実態や発達段階を考えて、ダンスをしたり歌ったりできる場を設定したことで、自分で好きな曲を流して楽しむことができた。</p> <p>3歳児では、繰り返し曲を聞いたりダンスをしたりすることで、曲に対する親しみを感じて表現を楽しむようになった。また、運動会では、自分で楽器をつかって遊びに取り入れたり、子どもフェスティバルでも手作り楽器を鳴らせる場をつくったりと、音楽にふれられる環境を整えたことで、更に音や音楽に親しむようになった。生活発表会に向けての取り組みの中では、自分で好きに鳴らすだけでなく、友達の音を感じながら鳴らすようになった。</p> <p>4歳児では、リズム遊びを繰り返し楽しむことで、ピアノの音の変化(強弱、高低、速度)に気付きながら体を動かしたり、友達と一緒に体を動かしたりすることを楽しむようになった。また、子どもたちの好きな曲でダンスする姿を運動会やバンビなどで、いろいろな人に見てもらい、認めてもらったことで、更に踊ることへの意欲につながった。生活発表会では普段から親しんでいるリズム遊びを取り入れることで、表現することが苦手な子どもも、自信をもって参加することができた。楽器遊びでは、友達の音を聞き合うことで、きれいな音の出し方に気付き、鳴らし方が丁寧になった。</p> <p>3、4歳児ともに、5歳児が歌っている歌に興味をもってクラスでも歌ったり、合奏したりして、いろいろな楽器に興味をもつようになった。</p> <p>5歳児では、昨年までの経験をもとに、素材を家庭から持ち寄って、友達と一緒に楽器をつくることを楽しんだり、いろいろな曲に興味をもって歌ったり踊ったりすることを楽しんでいる。10月に行われた大阪市立幼稚園音楽会では、他園の友達と一緒に歌う楽しさを感じたり、いろいろな人の前で歌ったりしたことで歌声が美しくなり、また歌うことへの自信につながった。発表会では、歌の歌詞も考えながら歌ったり、録音した自分たちの歌を聴いたりすることで、歌の表現の仕方が豊かになった。また、合奏する曲の原曲からイメージを膨らませ、子どもと一緒に使う楽器や鳴らすタイミングを考えていった。自分なりにタイミングやリズムを考えて鳴らしている姿を認めていくことで、自分なりの感性を大切にしていけるようにした。</p> <p>誕生会や集会などを通して、教材研究をし、いろいろなふれあい遊びや体操、ダンスを知</p>

り、保育に取り入れたことが、教師の学ぶ機会につながった。お楽しみ会では、教師がハンドベルの演奏をすることで、子どもが興味をもつきっかけとなり、その後の遊びにつながった。また、子どもがリズムを感じられるような伴奏の仕方などを教えあうことで、教師自身の資質向上につながった。

学期に1回以上、教材について学ぶ機会をもったり、子どもの感性が豊かになるような保育の工夫を行うことができた。

次年度の改善点

今後も音やリズムにふれながら感性が豊かになるような保育を行っていく。他クラスとの交流でも音楽を使って互いに体を動かしたり歌ったりしながら親しんでかかわれるような機会をつくっていきたい。